

## 1. 教育の責任

2025年度の担当科目は（表1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
保育内容言葉	2025	前期	1年生	演習	47名	1クラス
実習指導Ⅰ	2025	前期	1年生	演習	47名	1クラス *教員5名
実習指導Ⅲ	2025	前期	2年生	演習	57名	2クラス ※教員5名
子ども学ゼミナールⅠ	2025	前期	2年生	講義	9名	1クラス
保育内容言葉の指導法	2025	後期	1年生	演習	47名	1クラス
保育内容総論	2025	後期	2年生	演習	28名 29名	2クラス
実習指導Ⅱ	2025	後期	1年生	演習	47名	1クラス ※教員5名
教育実習	2025	集中	2年生	演習	57名	4クラス

（表1）2025年度 担当科目詳細一覧

## 2. 教育の理念

保育者養成の仕事に就いて、約10年が経った。それまで、長く保育の現場にいたため、実務家教員として学生に教育を展開する際に重視していることが2点ある。「保育の場は子どもも保育者も、それぞれが自分の人生の生涯の完成に向かって成長続ける場であり、保育者は子ども達一人一人の人生に立ちあい、かつ自分の人生にも立ちあっている」「教え導く関係ではなく、子どもも大人も共に成長しあう保育の原点」を学生に伝えることである。

特に言葉の発達に焦点を当て、乳幼児保育・教育において、「言葉の発達」は単なる言語習得ではなく、その背景となる豊かな生活体験があつてこそ、やがて自己表現と他者理解の核が育まれていくといえる。このため、子どもの発達段階を理解したうえで、豊かな言葉の環境を構築して言葉の育ちを支えることは、人格形成の基礎を築く営みであり、応答的な関わりを通して子どもと共にいる姿勢こそが保育者に求められる。

担当している「保育内容言葉」では、言葉を「育ちの基盤」として捉え、子どもの発話や語りの背景にある思いや意図を読み取る感性を学生自身が育めるようすすめる。また、「言葉の指導法」では、保育現場での保育者と子ども、子ども同士の日常的なやりとり場面や絵本等の

読みあい場面、児童文化財を適宜取り入れる保育内容を通して、保育者自身が言葉の豊かさを体現する重要性を伝え、事例検討やロールプレイ等を通して実践的な力を養う。

「保育内容総論」では、子どもの全人的な育ちを支えるために、保育内容各領域が相互にどう関連しあっているかを理解することを重視し、子どもの発達をある一面のみを切り取って測り捉えるのではなく、子どもの姿全体をまるごと捉えて、人がもつ無限の可能性を感じ取る感性を学生時代から育んでいく。その中で「言葉」が果たす役割や位置づけについて、保育記録の重要性や保護者との連携も含めた保育内容と方法について、「共に考え、共に語り、共に育つ」関係性を大切にして、多面的に考察する機会を設ける。

教育実践においては、学生自身の言葉も育つ学びの場づくりを心がけてきた。学生が、子どもとの関わりを通して、自らの保育観や教育観を言語化し、内面化していけるような支援を、これからも行っていきたいと考えている。

### 3. 教育の方法

授業では、「学生が自ら考え、言葉にし、これからの保育実践に結びつけていく」ことを重視し、講義形式だけでなく、グループワークや絵本・紙芝居の読みあい体験、教育現場の映像資料の活用等の学習方法を組み合わせている。

「保育内容言葉」では、子どもの言葉の発達とそれに関わる環境要因を踏まえた言語発達の理解を深めるために、発達心理学的知見を加えて、ケーススタディを取り入れた講義を行った。具体的には、テキストに沿った子どもの言葉の発達の筋道と、その際に重要な保護者や保育者や他児との関わりについて、具体例を多く取り入れながら教授した。また、学生自身の成育歴の中での体験や保育体験を、レポートとしてまとめたりグループワークで発表したりする機会を設け、学生自身が子どもの言葉の発達について積極的に理解を図れるよう工夫した。

### 4. 教育の成果・評価

2025年度の前期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。問1：学生自身の取り組み、問2：授業の内容、問3：授業方法、問4：総合評価、である。

「保育内容言葉」に関して、学生からの総合評価では「4.2」との数値が出た。昨年度の授業担当者と交代したため、単純な比較は差し控える。

自由記述からは「毎回聞きやすく分かりやすく、安心して授業を受けることが出来た。」「絵本の読み聞かせ等技術や実践の部分と、(言葉の)発達の理論に触れるところが繋がるように教えていただき、分かりやすくて面白かった。」「言葉の使い方や発達について、子どもならではの使い方をたくさん学ぶことが出来、関わり方を学ぶことが出来た」という前向きな記述から、子どもの言葉の発達に関して、講義を通して学び深めている様子がうかがえた。一方で、「毎回のレポート提出が大変だった。」「提出物は授業時間内に終了できる時間配分をお願いしたい」という意見もあり、今後の授業の組み立て方を再考し、工夫を重ねたい。また、文章表現方法には課題のある学生もおり、書く力の支援が引き続き今後の課題と認識している。

## 5. 教育の改善に向けた今後の目標

### (1) 保育内容言葉

短期的目標	① 子どもの言葉の発達や保育者としての関わり方について、現代的課題を見据えた教授内容と教授方法を工夫する。 ② 学生個別の力量に見合った文章力向上のための指導法を見出すと共に、子どもの発達に即した言葉掛けの在り方を学ぶ実践的な機会を多く持つ。 ③ 学生の言語表現力（記録・レポート・発表等）の育成に向けて、小レポートやピアレビューの機会を増やす。 ④ 言葉だけに特化しない総合的な保育の多様な捉え方に関する指導法も、演習を多く取り入れて教授する。
長期的目標	保育界の今後の動向と、「言葉」を巡る今日的課題を見据えた教授内容を、さらに精査する。

### (2) 言葉の指導法

短期的目標	① 乳幼児の言葉の発達と、保育内容・指導法の関係について具体的な事例や演習等を通して学びを深める教授内容とする。 ② 学生個別に対応した指導案の立て方、実践、省察、改善のサイクルを見出す為の内容を工夫する。
長期的目標	バイリンガル教育やコンピューター・リテラシー、バリアフリーな言葉に関する教材等も視野に入れた授業の構築を目指す。

## 6. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育内容言葉、言葉と表現の指導法、保育内容総論）
- (2) 授業時配布プリント（保育内容言葉、言葉の指導法、保育内容総論）
- (3) 試験問題（保育内容言葉、言葉の指導法・レポート試験、保育内容総論・筆記試験）
- (4) 成績集計結果（保育内容言葉）